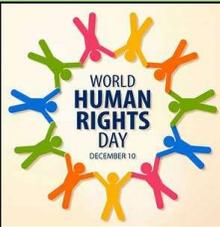


校長室だより NO. 21
ひだまり



世界人権デー Human Rights Day



NPO 法人グリーンリボン推進協会
広島支部長 森原 大紀 氏



医療を受けて、
生きる権利は
誰にもあるはず



12月10日は世界人権デー。心臓移植を経験された森原大紀さんとオンラインでつなぎ、広島から講演をしていただきました。レスリングに打ち込み充実した日々を送っていた森原氏は、ある日突然、心臓移植をするしか生きるすべはないことを知らされます。大きなショックと絶望の中「なぜ自分がこんなことに…」と自分を責めながらも、周りの人の支えや励ましで生きることを決心し、移植を受けられました。移植後も制限された生活を続けておられます。しかし、「一度きりの人生、くよくよしてられない。『できない』ことよりも『できる』こと、『持っていない』ものよりも『持っている』ものに目を向けるようにしている」とのことでした。国によって移植を待つ期間が大きく違い、現実には移植を待つ間に亡くなる人も多いそうです。「日本に生まれたから助からない、そんなことがあってもよいのか」という森原さんの言葉から、生徒は、日本では移植手術を何年も待たなければいけない厳しい現実を知り、医療を受けて生きる権利は、国を越え誰にも平等にあることを再認識している様子でした。

